

壁、天井に厚物合板現しで、 高気密外断熱のシンプルに作る「北国の住居」

所在地:北海道札幌市手稲区
 設計・総合:葛谷理俊+ZEROM國澤計画設計室
 構造:同上
 施工:北海建工
 構造/規模:木造軸組構法/2階建
 面積:(敷地)177.16㎡
 (1階)53.84㎡
 (2階)52.17㎡
 (延床)106.01㎡
 竣工:2002年12月

屋根の構成:ガルバリウム鋼板t0.4
 蟻掛葺き
 通気胴縁
 発泡スチロール板t50
 構造用針葉樹合板t28
 現し



勾配天井による伸びやかな空間



2階居間より食堂・台所と上部ロフトを見る

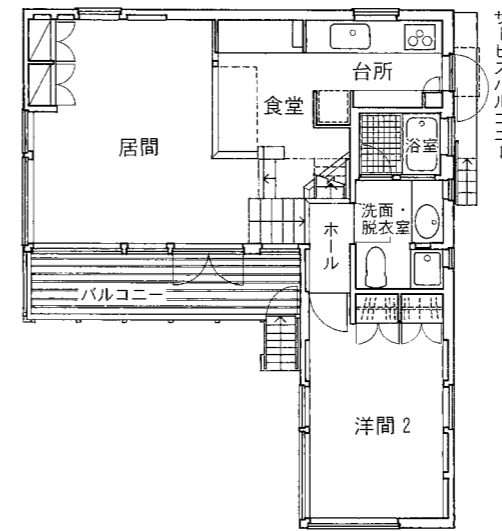


建物外観

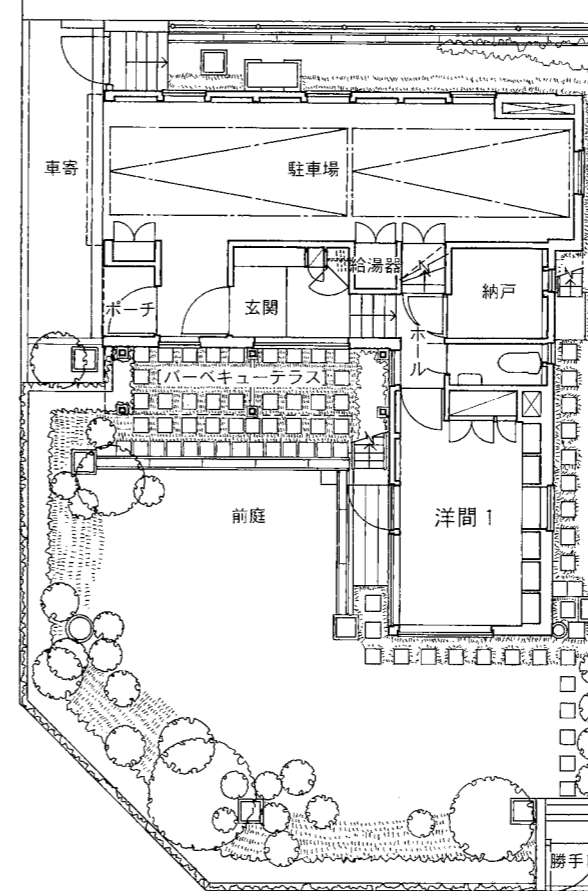


2階居間に設けられた大きな開口部

平面図・2階(1/200)



平面図・1階(1/200)



住宅について

関西から移住した私からみると、現代の北海道人は意外に寒さに弱い。「北海道人が本州に行くと風邪をひく」といわれるくらいだ。暖房手当が支給され、極めて閉鎖的な造りの家の中でガンガン灯油を焚き、Tシャツ一枚で暮らすスタイルがまればではない。

しかし、もに関西人としては、北海道といえども、雪景色を楽しみ、冬以外のシーズンも存分に享受したい、そんな思いをこめて造り上げた住居(すまい)である。

合板と外断熱で気密性と断熱性をしっかり高めつつ、開口部も高性能な三重ガラスの木製サッシのできる限り大きくとり、十分な開放性を確保し、外部との一体化を狙った。結果は、冬場の生活は、一般的な北海道の住宅ほど暑くはないが、僅か一台か二台のエアコンで関西時代よりはるかに暖かく過ごし易い、また、春・夏・秋のシーズンは広いバルコニーと相俟って庭に直結、本州人の憧れの地である北海道を満喫できる。まさに、もに関西人の北国暮らしの住居である。

屋根と合板について

屋根は、外壁と同様に、厚さ28mmの針葉樹構造用合板の上に発泡スチロール製の断熱材と空気層、更に、12mm合板、防湿層、仕上げはガルバリウム鋼板の二重構造で建物一体として北海道の厳しい気候に対処している。なお、寒冷地の特殊な現象である「すがもれ」対策として軒先には融雪装置を組み込んでいる。

また、これだけの厚物合板を用いることで、壁や床と同じく軸組みと強固に一体化して耐震性を高める一方、煩雑な二次部材を省いて内部の仕上げを兼ね、プレカットの集成材の柱やはりと相俟って架構そのもののシンプルな内部空間を造りだしている。